

株式会社ツインキールズ ～人々が支えあう世の中へ～

多摩大学 経営情報学部

免田 憲祐 (3年)、瀬谷 岳人 (2年)、大須賀 優人 (2年)

私たちは東京都東久留米市にある株式会社ツインキールズさんを訪問し、赤星良平社長にお話を伺いました。株式会社ツインキールズは、五麟会という医療法人の中の介護部門を担当している会社で、多摩ブルー・グリーン賞・優秀賞を受賞している企業です。

ツインキールズの介護

アルゴ（株式会社ツインキールズ）さんは地域密着型の介護サービスを運営しており、創業当時は、在宅介護を主なサービスとしていた企業です。現在は、商店街の中心に店舗を構え、通常のデイサービスを実施している部門と、介護に至る前に健康を維持してもらうための高齢者用のジムと、若者と高齢者の交流を促すカフェを構える店舗構成になっています。そのため、他の老人ホームや介護施設とは一線を画しており、全く異なる雰囲気的空間でした。

経営母体が医療を行っている会社であるため、デイサービスを利用していただけだけでなく、医師の診断を共有し対応するスタッフ全員が健康状態まで把握できることでした。地域密着型のデイサービスだからできることとして、レクリエーションを利用して作った折り紙が近くの病院の小児科に送られます。

老人ホームだけでなく、喫茶店や駄菓子屋などを運営することによって、デイサービスの利用者さん以外の人とつながることができ、その人がデイサービスの利用者側に回った時にアルゴの利用者になるのではないかと赤星さんは話していました。赤星さんは地域の人々の将来のことも考えているとのことでした。

このお話を聞いて私は、アルゴのデイサービスの運営方法にはほかのデイサービスとは違い地域の人とのつながりを持つことで人脈を増やすことができいろいろなことに挑戦できるようになっているのだと考えました。

ツインキールズの経営母体が医療を行っている法人ということもあり、ただのデイサービスではなく、利用者さんの健康状態も把握でき、利用者さん自身もそのご家族の人でも安心できるデイサービスの運営にもつながっているのではないかと考えました。



アルゴ（株式会社ツインキールズ）さんはこの会社だけで運営しているのではなく、地域の方々やデイサービスや駄菓子屋、喫茶店の利用者さん、関わる全ての人で創られているもの地域密着型そのものだと感じました。

地域に寄り添った街づくり



株式会社ツインキールズさんでは、介護事業を行うとともに、街づくりにも力を入れていて、介護業界ではとても珍しく、素晴らしい企業です。アルゴは、高齢者が多く住んでいる団地のすぐ近くにありますが、株式会社ツインキールズさんでは、商店街にアルゴという事業所を置いていて、昼間は多くの人で活気のある場所となっています。実際に取材した当日には、月曜日でもほとんどのお店が定休日でも、多くの高齢者の方がお散歩や交流をしているのを見かけ、何人かの人に声をかけていただきました。

この場所にアルゴを置くことになったきっかけは、元々別の事業所があり、その1か所で行っていたが、この商店街に空きテナントがあることを紹介してもらい、この場所にアルゴを置くことになりました。この事業所を置いたことによって多くの高齢者と関わりを持つことでこの地域に貢献したいという思いが生まれ、今、地域に寄り添った街づくりを進めています。

アルゴでは、事業所の中に喫茶店や駄菓子屋を設置していて、そのスタッフは地域のボランティアの方々を手伝ってもらっています。喫茶店の経営では、近所の住人の方や、地域の子供たち、近隣の大学の学生さんなど、様々な方の協力を得て経営しています。

赤星さんは、そのような地域のつながりを大事にして、この商店街を明るく、活気のある場所にしようとしています。駄菓子屋では、ただ駄菓子を売るのではなく、駄菓子屋のスペースの中には、レトロなゲーム機などもあり楽しむことが出来ます。

このような施設があるため、地域の方々同士の交流も増え、介護の相談などもでき、地域の活性化を図るとともに、介護の悩みなども相談できる素晴らしいものとなっている。また、商店街のお祭りなどの手伝いなども積極的に行っています。このように、ツインキールズさんでは、地域の方々との協力しながら、この地域に寄り添った街づくりをしています。



赤星さんの思い

ここでは、赤星さんの介護、地域への思いを書いていこうと思います。赤星さんはツインキールズの社長になる前までは、同じ介護業界の会社に勤めていて、そこで全国に190か所ほどデイサービスを作られました。しかし、その時に「本当にこのデイサービスはこの地域の人たちに必要とされているのか。」という疑問を感じ、もっとそこに住む地域の方たちのためになくってはならない仕事がしたいと思ったそうです。

この経験があるからこそ今のツインキールズでは、より地域のためになくってはならない存在になろうと考えたそうです。ご自身の経験があるからこそ今のツインキールズでは、より地域に深く関わり、そこに住む方々に信頼されているのだと感じました。

また、ツインキールズを一から作るうえで多くの人と関係を持ったことで、人と人との関わり大切さを認識でき、今では多くの方に支えられていると感謝していました。

今後は、地域の方たちがお互いに支えあって生活していけるような環境にしていきたいとお話されていて、その中で、やはり介護者の補助も必要になってくるが、人手不足がどんどん深刻化していて、特に若い人が少ないという現状があるというお話もありました。しかし、介護の仕事はつらいだけの仕事ではなく、やりがいも大きく、楽しい仕事なのでもっと若い人にも興味を持ってもらいたいと語っていました。

取材を終えての感想

私たちは、訪問する前までは介護を中心に行っていて、その傍らで地域に貢献している企業だと思っていました。しかし、実際は介護を中心に行っているのは同じであったが、街づくりについては大きく異なるものでした。

街づくりでは、私たちが想像していたような介護の傍らということではなく、本格的に地域に人と関わり、その地域に貢献していました。地域に貢献しているからこそ、その地域の方から信頼され、根付いていくのだと感じました。

また、介護事業については、お昼ご飯を利用者さんたちで作って、みんなで食べるといったようにほかのデイサービスには少ない活動なども行ってとても魅力的でした。



赤星社長は地域の方とのつながりを大事にしていて、街の人たちと協力して街づくりを行っているとわかりました。また、このような介護企業はまだまだ少ないとのことなので、今後はツインキールズさんのような意識を持った企業が増えるとよりよい環境が作れると思いました。